Jpn J Gen Hosp Psychiatry（JGHP） Vol. 25, No. 3
Copyright ⓒ 2013 by The Japanese Society of General Hospital Psychiatry Printed in Japan

国際学会印象記　韓国心身医学会学術総会

韓国心身医学会学術総会に参加して

清水　研

2013年6月7日，Hallym医科大学精神科教授のHan先生が大会長を務められた韓国心身医学会年会が，カトリック大学ソウル聖母病院で開催されました。日本総合病院精神医学会と韓国心身医学会の交流の一環で，木村神経科の木村哲也先生と筆者が参加してまいりましたのでご報告させていただきます。

羽田空港から金浦空港までわずか2時間ちょっとで到着し，金浦空港からは新しくできた地下鉄で，あっという間に会場の近くまでアクセスが可能であり，物理的な近さを実感いたしました。私たちは韓国心身医学会からのご招待という形で学会に参加したのですが，全日程にわたってホスピタリティあふれる温かいおもてなしをしていただきました。聖母病院はソウルのなかでもおしゃれな地域で知られる江南地区にあるのですが，総会前日は学会主催の晩さん会が催され，韓国心身医学会の主だったメンバーとともに，韓国の宮廷料理をいただきました。どの程度一般的かわからないのですが（笑），韓国の酒席では焼酎の杯を飲み干して，空になった杯に焼酎を注ぎ，次の人を指名するというようなことをよくするそうで，気分よく酔っ払い，たちまちお互いの距離が近くなりました。

本年の学術集会は，「性機能障害の心身医学的考察」がメインテーマとのことでした。プログラムを拝見すると，午前中はプレナリーセッションのようで，てんかん発作への対応などのテーマで発表がされておりました。午後は性機能障害の発表がされていたようですが，すべての発表は基本的に韓国語で行われたため，残念ながら内容を十分に理解することは難しかったです。昼食後の最初のセッションが交流のためのシンポジウムであり，韓国における精神腫瘍学の第一人者である嘉泉大学校の金先生に座長をしていただき，発表させていただきました。

筆者は，2012年の日本総合病院精神医学会学術集会でベストポスター賞をいただいたのですが，その際に報告した「肺がん患者の抑うつに関連する身体・心理・社会的要因の包括的検討」について発表させていただきました。本研究は国立がん研究センターにて構築した肺がんの大規模データベースを用いた疫学研究で，肺がん患者に合併する抑うつには身体要因よりも性格特性やコーピング様式などの関連が強いことを示したものです。また，木村哲也先生は2012年の金子賞を受賞された「コンサルテーション・リエゾン精神医学における身体疾患による適応障害の臨床研究～疾病の受容過程における体験反応様式による亜型分類の試み～」について発表されました。適応障害に至る患者さんに対する介入後の経過に関して，性格特性なども考慮に入れた考察をされており，臨床的に示唆に富むご発表でした。フロアからの質問も多く，韓国で日本の研究を発表し，興味を示していただいたことをとてもうれしく感じました。

総会後の懇親会でおいしい焼肉をいただきながら韓国の精神科事情について聞いてみたところ，主学会である韓国精神神経学会には，おおよそ3,300名の精神科医と，650名のレジデントが参加しているとのことです。韓国心身医学会の会員

国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科（〒104-0045　中央区築地5-1-1）

学会終了後の集合写真

は大部分が精神科医で，現在282名の登録があるとのことでした。日本総合病院精神医学会に比べるとその規模は小さく，韓国ではリエゾンコンサルテーションに従事する精神科医はそれほど多くないという話を聞きました。今後日韓で協力して，この領域を盛り上げていこうという思いを共有し，今度は東京で会いましょうと約束してお別れしました。

2泊3日と短い期間でしたが，韓国の先生方とさまざまな交流をさせていただき，楽しく有意義な滞在になりました。日韓の交流が今後ますます発展することを祈っております。稿を終えるにあたり，このような機会を与えてくださった2012年の学術総会大会長の保坂隆先生に心より感謝申し上げます。